

子ども施策**●子育て世帯生活支援特別給付金の支給**

先月、国の生活支援特別給付金、児童1人当たり5万円を、物価上昇の影響を特に受ける低所得の子育て世帯6,742世帯に支給しました。

●保育サービスの拡充

区独自の幼保一元化施設である「練馬こども園」の創設、「待機児童ゼロ作戦」の展開などにより、9年間で全国トップクラスとなる8,500人以上の保育定員増を実現し、3年連続で保育所待機児童ゼロを達成しました。来年4月、谷原5丁目の区有地に私立認可保育所1園を開設し、延長保育とゼロ歳児保育を行い、障害児を3名受け入れます。更に、練馬こども園を年度内に1園認定します。

●「ねりっこクラブ」の拡充

4月に区立小学校7校で「ねりっこクラブ」を開設し、7年間で学童クラブの定員は2,000人以上拡大しました。来年度は、全校実施に向け7校で開設します。区独自の「ねりっこプラス」は35校で実施しています。本定例会に、「練馬区ねりっこクラブ条例」および「練馬区立学童クラブ条例」の改正案を提出しています。

高齢者施策**●地域包括支援センター**

4月に「中村かしわ地域包括支援センター」、「やすらぎシティ地域包括支援センター」を開設し、27カ所体制が整いました。今後も、より身近で利用しやすい窓口で支援できるよう区立施設等への移転を進めるとともに、高齢者人口の将来推計や地域の人口バランスを考慮して増設を検討します。

●高齢者みんな健康プロジェクトの充実

高齢者みんな健康プロジェクトでは、今年度から、個別訪問の対象を、80歳以上で健康診断未受診などの方に拡大しました。今月中旬から訪問を始め、医療機関受診等に繋がります。



個別訪問の対象を拡大し、医療機関受診等に繋がります

●街かどケアカフェの増設

常設型の「街かどケアカフェかしわ」を4月に開設しました。地域サロン型は、今年度3カ所増設する予定です。団体と順次協定を締結し、開設を進めます。

●もの忘れ検診対象者の拡大

「もの忘れ検診」を、今年度から70歳以上の希望者にも拡大しました。5月末時点で受診券を26件発送しており、今後も周知に取り組みます。

福祉・医療施策**●障害者の意思疎通支援の充実**

昨年10月に、26カ所の窓口で開始した遠隔手話通訳は、障害者地域生活支援センターなど39カ所に拡大しました。情報支援機器の給付対象に知的障害者等を加え、障害者ICT相談窓口で、イラストで会話を補助する機器など、体験機材を充実しました。また今月から、失語症の方の団体に意思疎通支援者を派遣します(3面参照)。

●生活困窮者対策

4月から社協の「練馬ボランティア・地域福祉推進センター」で、ひきこもりや8050問題

などの相談事業を実施し、適切な支援に繋がります。

●訪問服薬健康相談事業の充実

練馬区薬剤師会と連携し、全国初の訪問服薬健康相談事業を行います。国民健康保険加入者のうち、受診記録や処方薬が多数ある方を対象に、来月から、訪問による服薬相談と健康相談を実施します。

まちづくり、環境施策**●大江戸線の延伸**

都は、大江戸線延伸について、3月、副知事をトップとする庁内検討プロジェクトチームを設置し、スピード感を持って検討を進めています。区は、旅客需要の増加に繋がる沿線まちづくりの推進や基金の効果的な活用検討を進め、早期事業着手に向けて都とともに取り組みます。



都と連携して、大江戸線延伸の早期事業着手に向けて取り組みます

●鉄道駅のバリアフリー化

先月、西武鉄道は、ホームドアを石神井公園駅から新桜台駅間の5駅で、今年度から順次整備に着手する計画を公表しました。区は、都と協調した補助制度を充実し、整備を促進していきます。

また、光が丘駅南側出入口のエレベーター設置が、令和6年度供用開始に向け、着手する運びとなりました。整備中のエスカレーターと合わせ、光が丘駅のバリアフリー化が大きく前進します。

●無電柱化事業

無電柱化推進計画で優先的に整備する道路に選定した24路線のうち、現在、3路線で事業が完了し、12路線で事業中です。今年度、新たに2路線に着手し、着実に事業を進めます。

●みどりの拠点づくり

長期プロジェクトである稲荷山公園の整備に向けて、夏頃を目途に「(仮称)専門家委員会」を設置し、自然環境の保全方法なども含め、段階的な整備のロードマップを検討します。

2月に白子川沿いの用地約1.2ヘクタールを取得しました。都の河川整備計画との整合をとしつつ、公園整備に向けた検討を行います。稲荷山公園、大泉井頭公園とあわせて白子川を軸としたみどりのネットワーク形成を進めます。

また、今年度は、(仮称)南高松の森緑地の新設や、北原公園、大泉町もみじやま公園の拡張工事に着手し、6年4月の開園を目指します。

●脱炭素社会実現に向けた新たな環境基本計画の策定

現行の環境基本計画に、エネルギービジョンと環境管理実行計画を組み入れ、脱炭素社会実現に向けた施策を体系化した環境基本計画2023を策定し、温室効果ガス削減目標を26%から46%削減に見直します。住宅等の消費エネルギー削減、環境に配慮したライフスタイルの推進、区の率先行動を軸に、区民・事業者と協働して一歩一歩脱炭素を推進していきます。近く素案を公表し、区議会並びに区民の皆様のご意見を頂き、9月に成案化する予定です。

経済、都市農業施策**●商店街振興**

練馬区商店街連合会のプレミアム付商品券の

募集には、約2.9倍の申込みがありました。来月5日から利用できます。昨年度に引き続き、キャッシュレス決済ポイント還元事業を、今月と来月実施します。デジタル化推進アドバイザーの商店街への派遣準備を進めており、練馬区商店街連合会とともにスマート商店街プロジェクトに取り組んでいきます。

●全国都市農業フェスティバル

11月の全国都市農業フェスティバル開催に向け、招聘都市とともに準備を進めています。招聘都市以外のブース出店は、これまでに20自治体が決定しました。121名の農業者の皆様にご協力頂き、顔写真入りのポスターを作成します。今月から、区内の全直売所にポスターやのぼり旗を設置します。引き続き、農業者の皆様やJA東京あおば、参加自治体と連携して取り組んでいきます。

「行かない・書かない」デジタル区役所の実現

場所や時間を選ばずスマホやパソコンから手続・相談が出来るデジタル区役所の実現に向け、申請等のオンライン化やキャッシュレス決済を更に推進します。

3月から、国民健康保険のオンラインによる脱退手続きを可能にしました。8月から、住民票や戸籍証明、税証明などの請求手続きに拡大し、チャットボットを引越しやお悔やみの手続き、妊娠中の健康相談やメンタルヘルスなどの問い合わせに活用します。7月から、子ども家庭支援センターとこども発達支援センターで、一時預かり事業などの利用料を、クレジットカードや電子マネー等で支払えるようにします。

おわりに

区長に就任して10年目を迎えました。この間、全国自治体を先導する多数の政策を実行してきました。福祉・医療は飛躍的に充実しました。これに加え、大江戸線の延伸は、私が小池都知事と膝詰めで談判し、実現に向けて本格的に動き出しました。西武新宿線の高架化、東京都練馬児童相談所の開設など、区が推し進めてきた重要な事業が実現に向かっていきます。

更に、全国都市農業フェスティバルの開催が間近に迫り、区立美術館のリニューアル、稲荷山公園をはじめとするみどりのネットワークの拠点づくりも始動しています。

4月にスタートした名誉区民、牧野富太郎博士がモデルのNHK朝ドラで、練馬区に居住していた時代がどう描かれるのか、期待が膨らむばかりです。今週16日には、練馬区の世界デビューと言っても過言ではない、ハリリー・ポッターのスタジオツアー東京がオープンします。リニューアルされた豊島園駅と練馬城址公園の豊かな緑が、魔法の世界へと誘う空間を実現しています。今まさに、練馬区は新たな発展期を迎えているのです。

世界情勢は不安定の度を加え、我が国は、少子化対策や社会保障費の増加など国の将来を左右する大きな課題を前にして、経済活力の低下と物価上昇の最中にあります。私たちが取り組んできた政策は、こうした時代と社会の分岐点にあっても、後世の評価に堪える普遍性を有していると信じています。これまでの取組を着実に継続・発展させながら、その上に立って、みどり、文化、スポーツ、都市インフラなど、区民生活をより豊かにする施策に更に力を入れていく考えです。

今年度、「(仮称)第3次みどりの風吹くまちビジョン」を策定します。これまでの施策を検証するとともに、社会状況の変化を踏まえ、今後の政策展開を明らかにします。年内に素案を公表し、年度内の成案化を目指します。

区民の皆様にお約束した「改革ねりま第Ⅲ章」を必ず成し遂げる。変わることを恐れない私の固い決意です。皆様のご理解、ご協力をお願いします。